

## 『岐阜県の多文化共生推進に向けて』意見交流会 実施報告

2012年11月19日 13:30～16:30 垂井町文化会館練習室 1,2

参加者 11団体 15名

主催:(公財)岐阜県国際交流センター

共催:NPO 法人泉京・垂井

2012年11月19日に垂井町文化会館にて『岐阜県の多文化共生推進に向けて』意見交流会を開催しました。この日は岐阜県内で多文化共生推進に取り組む団体を中心に11団体15名の方がご参加くださいました。参加団体は、NPO 法人美濃加茂国際交流協会、NPO 法人ブラジル友の会、NPO 法人 Mixed Roots×ユース×ネット★こんぺいとう、NPO 法人ここのは、養老町国際交流協会、学生ボラネット、岐阜県多文化共生推進員、(公財)岐阜県国際交流センター、垂井町企画調整課、垂井町・多文化共生のまちづくり協議会です。

本意見交流会は、私たち NPO 法人泉京・垂井から(公財)岐阜県国際交流センターへ企画を提案し、開催させていただいたものです。私たちが多文化共生事業に取り組み始めてから一年半が経過し、様々な課題や疑問が挙がってきました。そんな中、今までに多文化共生に取り組む団体との交流もほとんどなかったこともあり、活動を進めていく上での様々なヒントを得たいと思い、本意見交流会の企画・開催に至りました。岐阜県内で多文化共生推進に向けた活動を展開してきた団体同士が、相互の活動を知り、情報や意見を気軽に交換・共有できる場をつくることを目的として開催しました。

当日は、参加者同士の自己紹介や所属団体の活動紹介から始まりました。それぞれの参加者から団体が現在取り組んでいる活動や抱えている悩み、これからの展望などをお話しいただきました。意見交流会では、参加者同士で共有したい課題や悩み、他団体にぜひ聞きたいことなどについて意見を出し合いました。各自が意見を紙に書き、ホワイトボードに張り出して、カテゴリ分けをしました。出された意見は、「教育」、「日本語習得」、「意識啓発・参加促進」、「連携」、「地域」、「具体的支援」、「企業」、「情報提供」、「人材育成・組織づくり」の9つにカテゴリ分けされました。その中でも特に、小中学校に通う外国にルーツをもつ子どもたちへの学習や進路相談の支援、多文化共生に関心を集める方法、活動を広く周知する方法、学生ボランティアの活動への呼び込み、外国人登録制度の変更や美濃加茂市のソニーなどの大規模な工場の閉鎖に伴う支援体制のあり方、行政職員や学校の教職員に対する多文化共生に関する研修の要望に関する意見が活発に出されました。

参加者から出されたこれらの意見の中から、特に参加者同士で話し合いたいテーマについて意見交換をしました。主な内容としては、高校や大学の進学先選びに対する進路指導の体制をつくることや地域住民が関わってくれることで学習意欲が高まったこと、不安定な雇用契約を労働組合の立ち上げやソニーの工場閉鎖などをきっかけにして改善できない

か、長期的な視点がないと日本の地域社会に入り込むかどうかの決断ができないこと、医療通訳の需要は高いが行政の支援がなくなると継続が難しいことなどが話し合われました。

団体同士の活動内容の把握や課題の共有が図られ、有意義な時間となったことが今回の意見交流会の成果です。他地域の取り組みを知ることによって、垂井町においてもより一層活動を活発にしていこうという思いが高まりました。

これからも今回のような意見交流会を継続して実施し、課題の共有や解決方法、団体同士の協働事業の実施などについても話し合う場をつくっていきたいと考えています。

#### ◆写真



↑ 続々と活動に対する思いが出されました



↑ 出された意見は 40 近く！



↑ 活発に意見交流がされました！

以上